

南ア月報  
(2019年11月)

【内政】

- 野党民主同盟（DA）暫定党首の就任

【外政】

- ラマポーザ大統領のラグビーワールドカップ決勝戦観戦のための訪日
- ラマポーザ大統領の BRICS 首脳会合出席
- マシエホ・ドラミニ国際関係・協力副大臣の G20 外務大臣会合への出席
- ラマポーザ大統領のレソト訪問

【経済】

<経済指標>

- 消費者物価指数（CPI）
- 為替レート
- 製造業生産高
- 鉱業生産高

<出来事>

- 日・南アビジネスフォーラムの立ち上げ意図表明文書への署名
- 南アフリカ航空（SAA）が、ストライキを実施
- Eskom（電力公社）が新 CEO を発表

【広報・文化】

- ラグビーW杯関連広報行事の開催
- 第26回日本映画祭
- 映画「杉原千畝 スギハラチウネ」の上映会及び講演

【警備】

- 国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）南アフリカ本部事務所周辺路上でピクエッティングを行っていた外国人の排除

## 1 内政

### ●野党民主同盟（DA）暫定党首の選出

17日、国政野党第一党である民主同盟（DA）の暫定党首として、ステーンフイセン氏（Mr. John Steenhuisen）が選出された。

## 2 外政

### ●ラマポーザ大統領のラグビーワールドカップ決勝戦観戦のための訪日

1日から3日にかけて、ラマポーザ大統領は、ラグビーワールドカップ決勝戦観戦のため横浜を訪れた。同大統領の訪日は、G20大阪サミット、TICAD7に続き本年3回目となった。

南アフリカ代表（スプリングボクス）の優勝を受け、大統領府は「この優勝は、南アフリカ、ラグビーワールドカップ、そして宿主国であり南アの緊密なパートナーである日本にとり歴史的なものである」旨の声明を発表した。

### ●ラマポーザ大統領のBRICS首脳会合出席

13日から14日にかけて、ブラジルで行われたBRICS首脳会合に南アからラマポーザ大統領が出席した。国際関係・協力省の声明によれば、南アは、アジェンダ2063や持続可能開発のための2030アジェンダといったアフリカ大陸とグローバース・サウスの課題をBRICSで話し合うよう努力している。また、ラマポーザ大統領は、来年の南アAU議長国のプライオリティーやアフリカ大陸自由貿易圏の設立に向けたコミットメントを強調するためにこの機会を活用した。

### ●マシエホ・ドラミニ国際関係・協力副大臣のG20外務大臣会合への出席

22日から23日にかけて、名古屋でG20外務大臣会合が行われ、南アからはマシエホ・ドラミニ国際関係・協力副大臣が出席した。同副大臣は、G20とアフリカとの協力を推進し、「アフリカとのコンパクト」等のG20のイニシアティブが確実に実行されるよう働きかけた。

### ●ラマポーザ大統領のレソト訪問

27日、レソトで第二回国民対話全体会合が行われ、ラマポーザ大統領が出席し、SADC（南部アフリカ開発共同体）調停者として演説を行った。同大統領は、憲法、議会、司法、安全保障及び公的部門の改革を通じて、レソト情勢を安定化させる必要性を強調した。

## 3 経済

### <経済指標>

#### ●消費者物価指数（CPI）

10月の消費者物価指数（CPI）は、前月から変わらなかった。年間消費者物価インフレーション率は前年同月に比べ3.7%上昇。（南ア統計局、11月20日）

#### ●為替レート

2019年11月日付（南ア準備銀行）

7.3997 ランド/円

14.7837 ランド/米ドル

16.2761 ランド/ユーロ

### ●製造業生産高

9月の製造業は、前年同月比2.4%減。10部門中9部門でマイナス成長となった。主なマイナス要因は、鉄及び銅、非鉄金属、金属及び機械製品で4.8%減。木材および木材製品、紙、出版及び印刷で6.5%減。主なプラス要因は、食品、飲料品で2.9%増。季節調整後生産高は、前月比2.4%減。また第3四半期（7～9月）季節調整後生産高は第2四半期（4～6月）に比べ0.9%減で、製造業10部門中6部門で生産高減となった。（南ア統計局、11月7日）

### ●鉱業生産高

9月の鉱業生産高は、前年同月比2.2%増。主なプラス要因は、鉄鉱石で8.2%増。一方で、ダイヤモンドは15.7%減となった。季節調整後生産高は前月比1.5%増、また第3四半期の季節調整後生産高（7～9月）は第2四半期（4～6月）に比べ1.6%減となった。（南ア統計局、11月14日）

### <出来事>

#### ●日・南アビジネスフォーラムの立ち上げ意図表明文書への署名

11月6日、南ア政府主催の第2回南ア投資会議（SA Investment Conference）において、ラマポーザ大統領、パンドール国際協力大臣、日本企業などを含む約1,700名の聴衆を前にパテル貿易産業大臣と丸山則夫駐南アフリカ日本国大使との間で日・南アビジネスフォーラムの立ち上げ意図表明文書の署名が行われた。このビジネスフォーラムの目的は、日本企業のビジネス支援、また互いの政府、民間企業が継続的な対話を行うことによりビジネスの予見性を高めることを目的としている。投資会議では、ラマポーザ大統領が2018年に今後5年間で1.2兆ランド（1,000億ドル）の内外投資の呼び込みを目標として掲げる中、前回の第1回投資会議では3,000億ランド、そして今回第2回では3,630億ランドの投資が集まり412,000人の直接雇用が生まれることになるとの発表がされた。

#### ●南アフリカ航空（SAA）が、ストライキを実施

南ア国営企業の1つである、南アフリカ航空（SAA）が11月15～16日にかけて、国内・国際線のほぼ全便を欠航した。ストライキの原因としては、賃上げ交渉の決裂である。来年4月の主要労働組合の賃上げ要求が8%であったのに対して、SAAの経営陣側からは5.9%の提示であった。また、このストライキには全従業員5,000人のうち約3,000人が参加したとみられる。

#### ●Eskom（電力公社）が新CEOを発表

ゴードン公共企業大臣は、包装会社NampakのCEOであるアンドレ・ド・レイタ（Andre de Ruyter）氏がEskomの新CEOに就任することを発表した。同氏の就任は大きな驚きであり、最終候補の中に残っていたことすら知られていなかった。また、同氏はEskom内部の候補8名を含め、142名の中から選出された。Eskomは、前CEOであるパカマニ・ハデベ（Pakamani Hadebe）氏が7月末に辞任後、そのポストを欠いていた。レイタ氏の最大の任務は、Eskomの3つのユニット（発電、送電、配電）への分割を監督することである。

## 4 広報・文化

### ●ラグビーW杯関連広報行事の開催（決勝戦）

ラグビーワールドカップ2019日本大会関連広報行事として、2日に当館多目的ホールにおいて、南アフリカ代表（スプリングボクス）対イングランド代表の決勝戦のパブリック

クビューイングを実施した。会場では大会や試合開催地である横浜市の紹介を行うとともに、寿司や天ぷらといった日本食や日本産飲料を提供した。

試合結果は南アが劇的な勝利を果たし、会場全体がスプリングボクスの3度目のワールドカップ優勝に酔いしれた。

なお、スプリングボクスは帰国後プレトリア、ヨハネスブルグ、ダーバン、ポートエリザベスを含む主要都市にて凱旋パレードを行い、数万人が沿道に参集し歓迎した。

### ●第26回日本映画祭

当館及び国際交流基金による日本映画祭は、1994年の初回以来毎年開催されており、本年度で26回目となる。今年度は10月31日から11月2日までプレトリアにおいて、8日から10日までヨハネスブルグにおいて、また、15日から17日までケープタウンにおいて、「ルームロンダリング」、「勝手にふるえてろ」、「ジーニアス・パーティ」及び「ミックス」が上映された。来場者からは「日本文化の多様さを楽しんだ」、「日本のユニークさの理由を見た気がした」といった声が寄せられ、好評であった。

### ●映画「杉原千畝 スギハラチウネ」の上映会及び講演

6日にダーバン、14日にヨハネスブルグ、19日にケープタウンにそれぞれ所在するホロコーストセンターにおいて、映画「杉原千畝 スギハラチウネ」の上映会及び杉原氏に関する講演を実施した。

来場者からは「戦時下における日本社会を知ることができ、興味深かった」、「死をもいとわない杉原氏の献身に感動した」といった声が寄せられ、当地ユダヤ人コミュニティとの友好関係が深化するとともに、南ア一般層に対する知日派育成、対日理解促進に貢献した。

## 5 警備

### ●国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）南アフリカ本部事務所周辺路上でピケッティングを行っていた外国人の排除

14日、内務省及び警察等は、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）南アフリカ本部事務所周辺路上に10月初旬からテント等を設営してピケッティングを行っていた、約500人の外国人を排除、収容した。これらの外国人は、南アでの外国人排斥活動を恐れ、UNHCRに対して、国外への移住支援を求めている。

10月から続いたピケッティングについて、周辺住民が治安や環境悪化の懸念を示し、立ち退きを求めて提訴していたところ、13日に、北ハウテン州高等裁判所は、外国人らに対して、3日以内に立ち退くよう命令する判決を出していたが、判決後に複数の外国人がUNHCRの敷地内に侵入して建造物侵入罪を犯したため、警察等が直ちに介入した。